教えて石井理事!!

学環って何!?

今回の改革の目玉である学部横断型教育プログラム「地域創造学環」にスポットを当て、広報学生委員会が石井教育理事にインタビューを行いました。

Q「学部改革」を行う理由は？

平成28年4月から、第3期中期計画期間に入るにあたり、文部科学省は、全国の国立大学を3つの類型に分けました。静岡大学は、単科大学系の「特色ある教育研究」や旧帝大系の「卓越した教育研究」ではなく、地域のニーズに応える「地域型」を選択しました。本学の地域社会に根を下ろすというミッションに基づけば、「地域人材育成」に取り組むことをアピールする必要がありました。また、国全体の政策としての「理工系人材育成」重視を受けて、本学においても理工系学部の入学定員を増やすと共に、文系学部の定員を「学環」や文理融合的な新たな分野の人材育成に当てています。

Q「『地域』について学ぶ」とは？

地域について学ぶというのは、何を学ぶのかということが、茫漠としているところがあります。結局、地域といっても、地域の産業も地域ですし、地域の文化ということもあるかもしれない。それから、地域の環境という問題もあるかもしれません。地域と言ってしまうと、何でも地域なのです。地域という枠で何かをやろうとすると学部という組織ではぴったりと当てはまらない面があります。そこで、地域創造学環の特徴として、各学年にフィールド科目と演習科目を必修で置いています。地域でいろいろなことに取り組んでいる人が、どういうものを自分の課題だと考えていて、どういうことをやろうとしているかというのを、まずフィールドワークで勉強します。そこには、どういう問題があるのか。その問題を考えてもらうことから出発します。そのうえで、自分も共感できる課題というのを見つけてもらって、その課題に応じて、勉強する内容を決めていくという順番です。地域について学ぶときの第一段階として、みんな、必ずこれをやるべきだということは、最初に何もない状態では指定しにくいでしょう。だから、まず問題を見つけることから始めるわけです。問題解決ということを土台にして、そこから積み上げていくイメージです。

問題を見つけた後に、焦点を絞って課題を設定します。そのときに、特定の学部の授業しか取れないというと、そこで、何か地域の課題が発見されたとしても、それに応じて取れるものがすごく限定されてしまうから。全ての学部の授業が取れるような仕組みをつくっておいて、どういう課題を抱えたとしても、それに対応した授業を、自分で組み立てていくことができるのです。

Q「学部」でなく「学環」？

学環であって学部でないのはなぜなのかということが、一つあると思います。学環の「カン」というのは、「環」という漢字。特定の学部だけに縛られないで、いろいろな学部の授業を取って、4年間の教育を組み立てていくという考え方が、「環」という言葉に表れているわけです。

普通、みなさんの場合は学部に所属していて、全体の共通科目を30単位くらいと、各学部の授業を90単位くらい取りますね。だいたいは、共通科目以外は、自分の学部の授業を取ることがほとんどです。それは、ある意味ではカリキュラムがきっちりしていて、この授業の次はこれを取っていくということも分かりやすいので、安定した教育を受けられます。それは、逆に言えば、マイナスの部分もあるわけで、自身が所属する学部の教員の枠を超えて、何かを勉強しようと思ってもなかなか自由が利かなくなってしまいます。他学部の教員で、面白そうな人がいても、その人の指導を受けるとか、その人の授業を取るとかいうのは難しいということがあります。安定しているということは、逆にそこに縛られているということでもあって、マイナス面もあるわけです。

今回、われわれがやろうとしたのは、学部と違う学環という組織をつくって、少し学部という枠を離れるということです。学部という組織が持っている弱点を学環の“輪”という考え方で乗り越えていこうと思います。もう少し広く、いろいろな学部の授業とか、いろいろな学部の教員から学べる仕組みをつくってみたらどうだろうかということが、学環という組織の一つの目標なのです。

Q卒業後の「進路」は？

先ほど地域という言葉は広いと言いましたが、どういう分野を選ぶかということによって、かなり違ってくると思います。地域創生という点で言えば、地方の公務員になって、地域の政策を実現していくというのも一つの役割だと思います。そういう地方の公務員は、有力な行き先の一つだとは思いますが、様々な進路があると思います。例えば、今は高齢化社会になっているから、スポーツと医療を結び付けてみんな健康で長生きできるような生活をしていきましょう、といったことが言われていますよね。そういう地域におけるスポーツとか、医療とか、そういう活動に関連した職種が今後増えていくと思います。

また、街づくりやものづくりの面でも、地域のニーズを生かしたデザイン力や環境的視点、経営的感覚が求められており、こうした能力と結びついた職業についてもいろいろな可能性があると思います。

編集後記

新たに作られる学科や学環の話など、石井理事に直接お話を伺うからこそ知ることができる裏話を聞くことができました。石井理事に静大生に向けてのメッセージをお伺いしたところ、「いろんな事に興味を持つことが大切」だとおっしゃっていました。大学生としてのこの時間を、様々な挑戦と学びのあふれる時間にしていきたいです！（山下）

インタビュアー

榮　拓志（人文学部）
村松 純伶（人文社会科学部）
山下 琴音（人文社会科学部）
星　美里（人文社会科学部）
沼野 友里亜（人文社会科学部）
金子 ひかり（人文社会科学部）
林　遥香（人文社会科学部）
村田 美姫（教育学部）